



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和4年春季版

(令和4年5月17日)

※学生・生徒の学年はいずれも取材時

篠塚大登、世界ユース卓球・混合ダブルスV

ポルトガルのヴィラ・ノヴァ・デ・ガイアで12月2～8日に開催された2021年世界ユース卓球選手権大会で、エリートアカデミーの木原美悠選手と組んでU19混合ダブルスに出場した高校卓球部の篠塚大登(3年)が、堂々の優勝を飾りました。大会では、同部の篠塚と濱田一輝(3年)、中学卓球部の吉山和希(2年)がメンバーに加わったU19男子団体の日本チームも3位の成績を収めました。



初めてペアを組んだ木原美悠選手と混合ダブルス優勝を飾った篠塚大登
(写真はWTT提供)

U19混合ダブルスには、世界28の国と地域から31チームが出場しました。日本から唯一出場した篠塚/木原ペアは、1回戦から準決勝までの4試合をいずれも1セットも落とすことなく勝ち上がり、決勝で、本大会U19男女シングルス優勝者同士のペアである中国の向鵬選手/蒯曼選手と対戦しました。先行されながらも粘り強く戦い、最終ゲームを11-7で制して3-2で逆転勝利を収めました。



団体3位の濱田一輝(写真はWTT提供)

世界ユースランキング上位者しか出場できない世界ユース卓球選手権大会は、これまで行われていた世界ジュニア卓球選手権大会に代わるもので、今大会が第1回大会となります。篠塚は12月28日、後藤泰之理事長、荻原哲哉校長、今枝一郎卓球部監督とともに大村秀章愛知県知事を表敬訪問し、「決勝戦はリードされ苦しい状況でしたが、内容は負けておらず勝てる自信がありました」と優勝を報告。大村知事から「パリ五輪を目指して頑張っていたください」と激励を受けました。



大村秀章愛知県知事の激励を受けた篠塚大登ら

柳本理乃、W杯で初の表彰台に

フリースタイルスキーモーグルに取り組む大学競技スキー部の柳本理乃（3年）が、今季ワールドカップ（W杯）のイドレ（スウェーデン）大会で2位となり、自身初のW杯表彰台に乗りました。2022年1月現在、W杯世界ランキング7位（日本人3位）と好位置につけましたが、全日本スキー連盟のオリンピック派遣基準をクリアしていた5人で争った北京オリンピックの日本人枠「4」には、わずかな差で届きませんでした。

2019シーズンにW杯秋田大会で5位入賞し、全日本ナショナルチームでの活動を続けていましたが、その後の国際大会がコロナの影響で激減し、オリンピック派遣基準をクリアできないままシーズンインとなりました。2021年11月のW杯出場選考レース（スウェーデン）で2連勝、W杯出場権を手中にし、北京オリンピック出場を目指してスタートしました。

W杯初戦となるルカ（フィンランド）大会でいきなり6位入賞し、オリンピック派遣基準をクリア。続くイドレ大会で5位、2位と好調を維持していましたが、アルプデュエズ（フランス）大会中に大転倒、脳震盪で搬送され、約2週間、滑れない日が続きました。一時はW杯参戦継続も危ぶまれましたが、気力を振り絞り北米戦にフル参戦し、入賞を重ねました。



■ 2021年12月開幕の今季W杯での戦績

(MO = モーグル、DM = デュアルモーグル)

2021年12月 ルカ（フィンランド）大会 MO 6位

2021年12月 イドレ（スウェーデン）大会 MO 5位、DM 2位

2021年12月 アルプデュエズ（フランス）大会 MO 31位、DM 16位

2022年1月 トランブラン（カナダ）大会 MO 7位、M012位

2022年1月 ディアバレー（アメリカ）大会 MO 14位、MO 8位

W杯2位の柳本理乃選手を学園表彰

12月のフリースタイルスキーW杯イドレ（スウェーデン）大会で初の2位表彰台に乗った大学競技スキー部の柳本理乃選手と同部に対し、学園は学園表彰を行ってその栄誉をたたえました。愛名会からもお祝いが贈られました。

表彰は4月19日に八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が柳本選手と同部の西裕之監督に賞状などを手渡しました。後藤理事長が「あと一步で五輪に届かなかったが、この結果に自信を持って頂点を目指してほしい」と激励したのにこたえて、柳本選手は「4年後の五輪への新たなスタートとして、高みに向かって頑張っていきます」と力強く誓いました。西監督も「悔しさを必ず次に生かし、ステップアップしてくれると思っています」と、今後の活躍への期待を述べました。



学園表彰を受けた柳本理乃選手ら

中高卓球部、そろって選抜大会連覇！



高校は堂々の7連覇

第49回全国高等学校選抜卓球大会（3月18～21日・栃木県総合運動公園）で、高校卓球部が堂々の7連覇を達成しました。篠塚大登ら高校卓球界をリードした3年生たちが卒業した後に迎えた大会で、選手たちはたくましく重圧をはねのけました。

ライバルの野田学園（山口）と対戦した決勝では、1番の吉山僚一（2年）が幸先よく先制。タイで迎えた3番ダブルスに、初めてペアを組んだ吉山と中村煌和（1年）で勝利しました。王手をかけた後、勢いそのまま先に5番のキャプテン鈴木颯（2年）が勝利し、4番の中村も、これまで勝ったことがなかったという相手を果敢に攻めて、決勝点を挙げました。



鈴木颯



吉山僚一



中村煌和



萩原啓至（1年）※写真は
いずれもニッタクニュース提供

中学も重圧はねのけ

第23回全国中学選抜大会（3月26～27日・愛媛県武道館）で、中学卓球部が2連覇を果たしました。6連覇達成後に失った王座を奪還した前年に続き、今大会でも見事にプレッシャーをはねのけました。



吉山和希

男子団体1位トーナメントの決勝は、予想通りライバルの野田学園（山口）と対戦。トップの吉山和希（2年）がストレート勝ちすると、2番の持田陽向（1年）、3番ダブルスの橋本悠嵩（2年）／佐々木雄大（1年）も1ゲームも落とさず勝利を重ね、完勝で大会2連覇を決めました。



杉浦涼雅（2年）



日高宏紀（2年）



橋本悠嵩（左）／佐々木雄大



持田陽向※写真は
いずれもニッタクニュース提供

全日本卓球・ジュニア男子で吉山僚一がV2

東京体育館で1月24～30日に開催された全日本卓球選手権大会で、高校卓球部の吉山僚一（2年）がジュニア男子シングルス優勝を飾りました。吉山のジュニア男子制覇は、2020年に次いで2回目です。同部の鈴木颯（2年）も同種目で3位入賞しました。

鈴木との同士討ちになった準決勝を3-1で制した吉山は、決勝で2年前と同じ相手の松島輝空選手（星槎中）と対戦。ストレートで下してV2を達成しました。吉山は一般男子シングルスでもベスト8入りを果たしました。



V2を決めた吉山僚一



3位の鈴木颯 ※写真はいずれもニッタクニュース提供

このほか、学園の選手たちは一般男子シングルスで谷垣佑真（高校3年）と鈴木颯がベスト16の成績。一般男子ダブルスで中村煌和（高校1年）／萩原啓至（高校1年）がベスト8、濱田一輝（高校3年）／吉山僚一、岡野俊介（高校3年）／鈴木颯、篠塚大登（高校3年）／谷垣佑真（高校3年）がそれぞれベスト16でした。ジュニア男子では坂井雄飛（中学3年）がベスト8、萩原啓至と吉山和希（中学2年）がベスト16の成績を収めました。

このほか、学園の選手たちは一般男子シングルスで谷垣佑真（高校3年）と鈴木颯がベスト16の成績。一般男子ダブルスで中村煌和（高校1年）／萩原啓至（高校1年）がベスト8、濱田一輝（高校3年）／吉山僚一、岡野俊介（高校3年）／鈴木颯、篠塚大登（高校3年）／谷垣佑真（高校3年）がそれぞれベスト16でした。ジュニア男子では坂井雄飛（中学3年）がベスト8、萩原啓至と吉山和希（中学2年）がベスト16の成績を収めました。

高校卓球部と高校・中学フェンシング部を学園表彰

世界大会や全国大会で選手が優勝した高校卓球部と高校・中学フェンシング部に対し、学園は3月、学園表彰を行って栄誉をたたえました。愛名会と高校同窓会からもお祝いが贈られました。

高校卓球部は、昨年12月にポルトガルで開催された世界ユース卓球選手権大会のU-19混合ダブルスで、篠塚大登選手（3年）がエリートアカデミーの木原美悠選手と組んで優勝しました。1月に東京体育館で開催された全日本卓球選手権大会では、吉山僚一選手（2年）がジュニア男子シングルスを制しました。

高校・中学フェンシング部は、1月に東京の駒沢オリンピック公園で開催されたJOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会で、林川琉偉選手（中学3年）がカデ部門男子フルーレで、金高生幸選手（中学3年）がカデ部門女子サーブルで、弓長昇主選手（高校2年）がカデ部門男子エペで、それぞれ頂点に立ちました。林川、金高、弓長各選手は、4月にドバイで開催の世界ジュニア・カデ選手権の日本代表に選ばれました。

表彰式で、後藤泰之理事長は「さらなるステップアップを」と激励し、各選手は日ごろのサポートに感謝を述べつつ今後の活躍を誓いました。卓球部の今枝一郎監督、フェンシング部の富田弘樹監督も「さらに飛躍する年にしたい」などと決意を新たにしました。



高校卓球部



中学フェンシング部



高校フェンシング部



全日学で宮本／田原が初優勝

10月28～31日に埼玉県所沢市民体育館で開催された第87回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部で、男子ダブルスに出場した本学卓球部の宮本春樹（4年）／田原彰悟（3年）が初優勝し、念願の学生個人タイトルを手に入れました。男子シングルスでも本学の高見真己（4年）が準優勝しました。

男子ダブルスの宮本／田原は、準決勝で明治大の宇田幸矢選手／戸上隼輔選手を3-1で下し、決勝でも明治大の西康洋選手／菅沼湧輝選手を3-1で下してうれしい初優勝を飾りました。本学のこの種目での優勝は、前回（令和元年）の木造勇人／田中佑汰に続いて2大会連続となります。



男子シングルス準優勝の高見（写真はニッタクニュース提供）

一方、男子シングルス準々決勝で明治大の宇田選手を下した高見は、準決勝で本学の横谷晟（1年）との同士討ちを制し、決勝で明治大の戸上選手に3-4で惜敗しました。

宮本・田原・高見・横谷のほか、本学の選手たちは男子シングルスで田原、女子シングルスで岡田琴菜（1年）、男子ダブルスで中村光人（2年）／横谷、女子ダブルスで岡田／大川真実（1年）が、それぞれベスト4に入るなど好成績を収めました。

第87回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部で男子ダブルス優勝を飾った大学男子卓球部に対し、学園は学園表彰を行って選手らの努力をたたえました。愛名会からもお祝いが贈られました。

表彰は12月20日に八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が優勝ペアの宮本春樹選手・田原彰悟選手と鬼頭明総監督、森本耕平監督に賞状などを手渡しました。後藤理事長が「思いの強さが表れた優勝。さらに次を目指してほしい」と激励したのこたえ、宮本選手は「最後の学年に個人戦で結果を出せてうれしい」、田原選手は「また来年も優勝できるように頑張りたい」とお礼の言葉を述べました。



後藤理事長らを囲んで、部員・指導者たち

森本監督も「エースダブルスが国際大会で不在の時、明治大の実力ペアを破った文句なしの優勝」と振り返り、今後ますますの活躍を誓いました。

横谷が世界選手権代表入り LION CUP TOP32 で3位

卓球の世界選手権団体とパリ五輪の選考を兼ねる「2022 LION CUP TOP32」（3月5～6日・アリーナ立川立飛）で、大学男子卓球部の横谷晟（1年）が3位入賞し、初の世界選手権代表入りを決めました。

日本のトップ選手が集う「2022 LION CUP TOP32」は、2024パリ五輪卓球日本代表選考ポイント付与大会の1つであるほか、ベスト4に入った選手は、世界卓球2022成都の代表権が内定します。

男子シングルス1回戦で、横谷は愛工大名電高の後輩である吉山僚一（2年・全日本ジュニアチャンピオン）を下し、準々決勝ではチームメイトの曾根翔（1年）との同士討ちを制しました。

準決勝の張本智和選手（木下グループ）にはストレートで敗れたものの、3位決定戦で丹羽孝希選手（スヴェンソン）を4-2で破りました。大学に入ってナショナルチーム候補選手から外れた横谷は、昨年夏からドイツ・ブンデスリーガ2部で武者修行。異なる環境での経験を踏み台に、シニアで初めての日本代表切符を手に入れました。



世界選手権代表入りを決めた横谷晟（写真はニッタクニュース提供）



田中佑汰（右）／木造勇人

垣佑真（3年）／篠塚大登（3年）がダブルス3位▽ユースコンテ
ンダー リンツ大会（4～5月・
オーストリア）高校卓球部の
鈴木颯（3年）がU19準優勝、
中学卓球部の吉山和希（3年）
がU15準優勝

国際大会新シリーズ『WTT（World Table Tennis）』で準優勝ほか

2021年から始まった卓球の国際大会新シリーズ『WTT（World Table Tennis）』で、学園の選手たちが次のような優秀な成績を収めています。

▽コンテナー ラシュコ大会（11月・スロベニア）大学男子卓球部の田中佑汰（3年）／木造勇人（4年）がダブルス準優勝▽コンテナー ノヴォ・メスト大会（11月・スロベニア）高校卓球部の谷



谷垣佑真（右）／篠塚大登



鈴木颯



吉山和希（写真はい
ずれも WTT 提供）

中部日本学生スキー選手権で4年ぶり15回目の総合優勝

大学競技スキー部が、第67回中部日本学生スキー選手権大会（3月4～6日・白馬岩岳スノーフィールドほか）で、4年ぶり15回目となる総合優勝を果たしました。

今大会は中部地区9大学の60人が6種目で争い、本学は初日の大回転で堀井響（情報科学科1年）が優勝したのをはじめ、アルペンとクロスカントリーの全6種目で入賞し、ポイントを重ねました。

信州大学との総合優勝争いは最終種目の回転までもつれましたが、3人が入賞し、逆転で4年ぶりの栄冠を手に入れました。

主な成績

- 男子総合 優勝：愛知工業大学（4年ぶり15回目）
- 大回転 優勝：堀井響、6位：藤原純之介（経営学科1年）
- スーパー大回転 5位：藤原純之介、6位：堀井響
- 回転 3位：安藤昂佑（経営学科4年）、4位：藤原純之介、6位：堀井響
- 10Km フリー 3位：林田直樹（経営学科2年）
- 10Km クラシカル 2位：林田直樹
- リレー 2位 愛知工業大学＝林田直樹、藤原純之介、堀井響、鈴木駿輔（電気学科1年）



総合優勝の競技スキー部



大回転優勝の堀井響



感動を届けた第57回定期演奏会

勇壮なステージドリルによる「スター・ウォーズ」のテーマなどで幕開け後、組曲「惑星」より木星、巨匠アルフレッド・リードの「アルメニアン・ダンス パートI」、第50回記念定期演奏会委嘱作品「ゴールデン・ジュビレーション」、名電の十八番となった「Happy」、チームワークの象徴といえる手作りミュージカル「レ・ミゼラブル」メドレーなどを次々と披露しました。

コロナ禍が続く今年度も、部員たちは考えられる限りの工夫を重ねながら活動を続けました。初の九州の舞台で地元強豪校と出演した「プラスパワーサウンズグッド！」（11月28日・福岡サンパレスホール）や、北海道の旭川商業高校とのジョイントコンサート（12月24日・センチュリーホール）など、モットーとする「きずな」の輪を、さまざまな機会を通じて広げました。引退のステージとなった3年生をはじめ、194人の部員たちは、共に過ごした日々の思い出を胸に刻み、会場の吹奏楽ファンに感動のサウンドを届けました。

全日本マーチングコンテスト銀賞

高校吹奏楽部は11月21日、大阪城ホールで開かれた第34回全日本マーチングコンテストに出場しました。高等学校以上の部に全国11支部から選ばれた25団体が出場した中、銀賞を受賞しました。

高校吹奏楽部の第57回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第57回定期演奏会が、1月8日夜と1月9日昼・夜の3部体制により、名古屋国際会議場センチュリーホールで感染防止対策を十分に講じて開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹顧問らの指揮による全4部構成。

大学、高校、中学合わせて12クラブを表彰

学園は11月～3月にかけて、全国大会に出場の大学2クラブ、高校7クラブ、中学3クラブに対してクラブ表彰を行い、後藤泰之理事長が激励しました。愛名会や高校同窓会、高校PTAからもお祝いが贈られました。

【11月17日の表彰】



▼高校吹奏楽部

第69回全日本吹奏楽コンクール
第34回全日本マーチングコンテスト

【12月9日の表彰】



▼高校ボウリング部

文部科学大臣杯 第28回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会

【1月20日の表彰】



▼高校競技スキー部

第71回全国高等学校スキー大会
第34回全国高等学校選抜スキー大会

▼中学スキー部

第59回全国中学校スキー大会

【11月5日の表彰】



▼大学陸上競技部

秩父宮賜杯 全日本大学駅伝対校選手権大会

【12月6日の表彰】



▼大学フェンシング部

2021年度全日本学生フェンシング選手権大会
第74回全日本フェンシング選手権大会(団体戦)

【3月10日の表彰】



▼高校卓球部

第49回全国高等学校選抜卓球大会

▼高校フェンシング部

第46回全国高等学校選抜フェンシング大会

▼高校相撲部

令和3年度全国高等学校相撲選抜大会

▼高校メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン2022名古屋

▼中学卓球部

第23回全国中学校選抜卓球大会

▼中学メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン2022名古屋

学生たちの課外活動を表彰

課外活動で優秀な成績を収めた団体・個人に対する令和3年度課外活動表彰式が3月24日、八草キャンパス愛和会館講堂で行われました。曾我部博之副学長が学生たちに表彰状・記念品を手渡し、努力をたたえました。

クラブ表彰で表彰されたのは次の皆さんです。

▽柳本理乃(競技スキー部) / FIS フリースタイルスキーワールドカップ2021 イドレ(スウェーデン) 大会デュアルモーグル女子2位

▽成瀬あおい(ライフル射撃部) / 国民体育大会第42回東海ブロック大会兼第76回国民体育大会東海地区予選会1位

▽井川峻吾(囲碁・将棋部) / 第20回全国学生囲碁王座戦ベスト16(中部地区大会2位)

▽中納航汰(ASTRON) / 第17回種子島ロケットコンテスト大会ロケット部門第2位

大学男子卓球部が年間総合1位でJTTLファイナル4に出場

唯一の学校チームとして日本卓球リーグ男子1部に加盟する男子卓球部は、全勝優勝した令和3年度の前期大会に続き、後期大会（11月10～14日・さいたま市）でも2位となり、年間総合第1位に輝きました。これを受けて上位4チームが年度チャンピオンの座を競うJTTLファイナル4（12月4～5日・長野県千曲市）に進出し、準優勝の成績を収めました。

フェンシング高校選抜・男子学校対抗フルーレ準優勝

第46回全国高等学校選抜フェンシング大会（3月25～27日・熊本県立総合体育館）の男子学校対抗フルーレの部で、高校フェンシング部が準優勝しました。男子はサーブルとエペでもベスト8の成績を収めました。女子もフルーレでベスト8と健闘しました。

ビッグトーナメント福島大会で横谷3位、OBも活躍

国内のトップ選手らが競うシチズンカップ第31回日本卓球リーグ選手権・ビッグトーナメント福島大会（4月20～23日・福島県南相馬市スポーツセンター）で、大学男子卓球部の横谷晟（2年）が男子シングルス3位の成績を収めました。男子ダブルスでは大学のOBたちが活躍し、藤村友也選手（日鉄物流ブレイザーズ）が優勝、松下大星選手/宮本春樹選手（クローバー歯科カスピズ）が準優勝に輝きました。

eスポーツ大会『GT Young Challenge 2021』で自動車部が決勝進出

全日本学生自動車連盟に加入する14大学の自動車部がプレイステーション4専用ソフト『グランツーリスモSPORT』で競い合うeスポーツ大会『GT Young Challenge 2021』（朝日新聞社主催）の予選会が10月30日に鈴鹿サーキットで開催され、本学自動車部が決勝（12月19日に東京ミッドタウン日比谷のBASE Qで開催）進出を果たしました。

全日本学生囲碁王座戦本戦出場

大学囲碁将棋部の井川峻吾（3年）が、第20回全日本学生囲碁王座戦の本戦ネット対局でベスト16に残り、12月21～22日に東京で開かれた本戦リアル対局に出場しました。全日本学生囲碁王座戦は、世界学生囲碁王座戦（本年度は中止）の日本代表を決定するための大会で、本学から久々の最終トーナメント出場を決めました。

アジア競技大会卓球競技代表選考会でOB2人が代表に

第19回アジア競技大会卓球競技代表候補選手選考会（4月9～10日・赤羽体育館）で本学OBの吉村真晴選手（愛知ダイハツ）が優勝し、シングルの代表権を獲得しました。本学OBの松下大星選手（クローバー歯科カスピズ）もグループリーグで2位となり、代表に内定しました。

種子島ロケットコンテスト大会で3チームが入賞

第18回種子島ロケットコンテスト大会（宇宙航空研究開発機構などの実行委員会主催）は3月7日にオンライン開催され、大学の文化系クラブであるASTRONから参加した3チームが、部門賞2位などの優秀な成績を収めました。

大会は、本来は作製したモデルロケットを種子島宇宙センターで飛ばす競技会ですが、ここ3年はコロナ禍のため中止かオンライン開催となり、自分たちのチームが作成したロケットを実際に飛ばし、成果をプレゼン形式で発表しています。

今大会でASTRONから参加した4チームのうち、ペイロード有翼対空部門に出場した「MMM」チームが2位入賞しました。この部門は翼付きの積載物（ペイロード）を機体にのせて打ち上げ、その滞空時間を競います。チームは、風の強さに合わせて落下速度が制御できるペイロードを作成しようと考え、ヘリコプターの翼ピッチ角可変機構を応用し、ペイロードの翼角度を変えられるようにしました。また、受信機をペイロード内に収納することでラジコンによる翼角度操作で落下速度制御を可能にしました。

このほか、同部門で「AIT航空」チームが3位入賞し、滞空・定点回収部門に出場した「fen」チームが6位の成績を収めました。コロナ禍の自粛により制約の多い環境下、ぎりぎりまで制作に取り組んだ学生たちは「他チームの多彩な技術を学ぶことができた」と手ごたえを話し、学部1・2年の参加者も「来年はこの知識と経験を生かして優勝を目指します」と意欲的でした。



MMMの左から岩月さん（3年）、牧田さん（3年）、中納さん（3年）



AIT航空の左から中納さん（3年）、青山さん（2年）



fenの左から森さん（2年）、松下さん（2年）